

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「英知・至誠」に基づき、新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけ、自ら学び、自ら考え、自ら鍛錬し、それに基づいて自ら誠実に行動することができる人を育成し、地域に愛される学校をめざす

2 中期的目標

- 1 授業改善と授業力向上に取り組む、「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動
- (1) 組織的に授業力向上と改善に取り組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる
- ア 「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う
- イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員が多種多様なデジタルコンテンツについて知識を深め、それらを効果的に取り入れた授業を行う
- ※ 生徒「進路実現のための学力向上満足度」を向上させる [R03;67.4% R04 ; 74.3% R05 ; 78.9%⇒令和8年度;80%]
- (2) 総合的な探究の時間をはじめ、すべての教科・科目等において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学びを充実させることにより、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成する
- ア「総合的な探究の時間」において、本校の特色となる系統的な指導計画の作成と実施を図るためのフォーマットを作成し、「緑風冠モデル」として完成させ、年度を重ねるごとにアップデートする
- (3) 3か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する
- ※ 生徒、保護者「進路指導に関する項目の満足度」を向上させる
- [R03;80.4%、69.1% R04 ; 86.2%、84.8% R05;89.3%、84.0%⇒令和8年度;90%、85%]
- ※ 学校紹介による就職内定率 [R03 ; 100% R04 ; 100% R05 ; 100%⇒令和8年度 100%維持]
- ※ 関関同立・産近甲龍・摂神追桃・外（関西・京都） 合格者数を増加させる [R03;40人 R04 ; 89人 R05 ; 98人⇒令和8年度;80人]
- (4) 英語教育の充実を図るとともに、様々な検定試験を実施し、生徒のコミュニケーション能力と進路意識の向上に取り組む
- ア 講習、資格試験の受験指導、外部行事への参加、デジタルコンテンツの活用などにより、英語教育を充実させる
- イ 英検、漢検、数検など様々な資格試験を1年次より実施し、進路意識と自己肯定感の向上に取り組む
- ※ 英検・漢検・数検・N検等の外部資格の受験者数を増加させる [R05 ; 166人⇒令和8年度;200人]
- 2 自律心を高める生徒指導、地域と連携した教育活動、魅力ある特別活動に取り組む、地域・保護者に信頼される学校づくり
- (1) 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる
- ※ 生徒「学校の規則を、きっちり守っている」を維持する [R03;94.6% R04 ; 96.2% R05 ; 95.2%⇒令和8年度;高い肯定率維持]
- ※ 生徒「教育相談に関する満足度」を向上させる [R03;72.1% R04 ; 87.1% R05 ; 86.7%⇒令和8年度;90%]
- (2) 生徒の自己有用感を醸成し、帰属意識を高め、安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上する
- ※ 生徒「学校行事に積極的に参加している」を維持、向上させる [R03;88.9% R04 ; 89.5% R05 ; 92.0%⇒令和8年度;95%]
- (3) 保護者及び地域との連携した活動を推進するとともに、学校ホームページや学習支援クラウドサービスにより学校の情報発信を行う
- ※ 保護者「子どもは楽しそうに学校生活を送っている」を維持する [R03;79.0% R04 ; 87.3% R05 ; 87.5%⇒令和8年度;85%以上を維持]
- ※ 保護者「学校は家庭との意思疎通を十分に行っている」を向上させる
- [R03;78.5% R04 ; 87.0% R05 ; 77.6%⇒令和8年度 85%]
- 3 人権尊重の教育を推進するとともに、「ともに学びともに育つ」教育の実践により、すべての生徒に安全・安心な教育環境の構築
- (1) 共生推進教室を組織的な校内体制で推進するとともに、障がいのある生徒の自立を支援する
- ア 共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の進路実現
- イ 障がい者理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる
- ※ 進路実現 [R03 ; 100% R04 ; 100% R05 ; 100%⇒令和8年度 100%維持]
- (2) 教職員の人権教育等の研修を定期的 to 実施するとともに、生徒への人権教育を推進する
- ※ 教職員向け年2回の人権研修を実施し、研修への肯定率を向上させる
- [R03;75.0% R04 ; 85.4% R05 ; 81.3%⇒令和8年度;85%]
- ※ 生徒「人権等の学習機会がある」を向上させる [R03;80.4% R04 ; 84.0% R05 ; 92.7%⇒令和8年度;95%]
- 4 校務の効率化と働き方改革の推進
- (1) 学校経営に教職員が参画するPDCAサイクルを推進する
- ※ 教職員「学校運営に教職員の意見が反映されている」を向上させる [R03;58.3% R04 ; 58.3% R05 ; 62.5%⇒令和8年度 70%]
- ※ 教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」を向上させる
- [R03;52.1% R04 ; 47.9% R05 ; 50.0%⇒令和8年度 70%]
- (2) 校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。
- ※ 教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる [R03;42.8% R04 ; 50.0% R05 ; 60.4%⇒令和8年度 70%]
- ※ 80時間/月以上の超過勤務者を毎年前年比20%減少させる [R03 ; 18件 R04 ; 21件 R05 ; 16件⇒令和8年度 11件未満]

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年11月実施分〕	学校運営協議会からの意見
〔生徒〕 回収率91％（昨年度81％） ・回収率が大幅に上昇した。フォーム活用によるアンケートが定着しているものと考えられる。 ・設問5「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」については、相談をする必要を感じていない生徒にとっては、この質問に対する必要性を感じていない回答をしていると想定されるため、肯定的数値（69.0）が低いと思われる。 ・設問8「1人1台端末を効果的に活用している」については、肯定的数値が高いレベルで上昇（88.9⇒94.7）しており、1人1台端末の活用が大きく進んでいることが分かる。 ・設問13「避難経路など災害時の行動について知らされている」については、昨年度に比べ大幅に肯定的数値が上昇（73.6⇒87.8）している。昨年はこのアンケートの後に避難訓練を実施したが、本年はアンケート前に実施したことが影響していると思われる。一昨年度の数値は88.6で本年とほぼ同数値である。 ・今後は探究活動における「緑風冠モデル」を生徒の学びの動機付けに繋げ、設問16「将来の目標に向かって努力している」の肯定的数値（79.0）の向上を図りたい。 ・モノグサについては導入3年目となるが、全ての設問項目において全体的に高い肯定的数値が出ている。本校の特色となってきた面もあり、次年度も引き続き利活用していきたい。	〔第1回 7月 3日〕 ○キャリア教育について ・「総合的な探究の時間」の「緑風冠モデル」の完成が近づいているのが好印象。企業側の目から見ても、「なりたい自分」を明確に持っている人は入社後の成長が早い。「どこの大学に何人」という目標だけでなく、そういう人物の育成に力を注いでいただきたい。 ・看護コースの生徒の中から、国家資格である「義肢装具士」をめざす生徒が出てきてくれると嬉しく思う。 ○部活動について ・部活動加入率の向上を指標に挙げているが、生徒や社会の意識が変化している現状には合致していないのではないかな。 ・公立学校の部活動自体は縮小化していく流れを感じている。中学校では地域移行が進んでおり、特に大東市は府内でも進んでいる方。競技性をめざし、頑張りたい生徒は強豪私学やクラブチームなどに加入するでしょう。 ・大阪府も合同部活動や部活動指導員などの制度改革を進め、生徒の活動機会の確保や教員の働き方改革を積極的に進めておられるが、学校現場で活発な部活動を推進していくことについては、中々難しい時代になってきていると認識している。 ○校務の効率化と働き方改革について ・指標には「80 時間/月以上の超過勤務者を減少させる」とあるが、この部分は必ず「ゼロ」にするべく努力するところだと思う。 ・効率化と働き方改革を進める上で、「ヒトの教育が大切」であるということは決して見失わないでいただきたい。
〔保護者〕 回収率31％（昨年度45％） ・回収率の低下（回答数が昨年度の320件から203件に留まった）については、来年度への課題としたい。 ・ICTツールの活用に際し一定の浸透が見られる半面、設問11「学校ホームページで情報を得ている」は3か年続けて減少していることから、情報の取得に際する興味関心が年々低下していることが数値として表れている。 ・本校教育活動に関する各種設問項目は、7～8割前後の肯定回答をいただいている。一方で設問8「授業参観や学校行事に参加したことがある」を除き、3か年で少しずつ肯定回答率が減少している。高校生となった生徒たちへの保護者の関わり方や学校に求めることの変容が推察される。 ・時代の変化に相まって変容するニーズを感じ取り、保護者と連携して、より良い教育活動に引き続き注力していきたい。その中で、兼ねてより「高校は最後の社会勉強の場」と表現されることが少なくない教育現場において、生徒一人ひとりが社会の一員となって繋がっていくことができる力の育成を学校総体で継続してまいりたい。	〔第2回 11月 20日〕 ○キャリア教育・授業力向上について ・学習到達ゾーンを3年時に1ランクアップすることができていないと評価をされているが、ネガティブに捉える必要はないと考える。学力上位層は維持もしくは向上、中下位層が伸び悩み二極化している。これは他の府立高校でも同じ傾向がある。これまで学力で審査をして受け入れてきた社会のハードルが下がり、学力ではないもので図るという傾向もある。やりたいことを見つけ、目標をつくり学習するといった傾向である。総合的な探究の時間で「自分をみつける」という手法はとても良いと思う。 ・探究活動を通じて生徒たちから学校へ声が届きだしているとのこと。特に校則については、現状を守ることも大事だが、生徒の上げた声を拾うことも大切である。例えば生徒会が動くなど「ここまで〇〇できたら、〇〇していこうか」など、学校と生徒が対話をしていくことも良いことではないかと思う。 ・生徒の「授業アンケート肯定意識」の目標値が3.4以上となっているが第1回目の結果は3.3。4段階評価であれば3.3は決して低い数字ではないと考える。どちらかと言えば良い数字ではないかな。 ・本日話をしてきた内容（大事なのは学力だけではないこと、探究活動を深めてなりたい自分を見つけること）とめざす学校像は同じではない。生徒も教員ももっと意識づけしては良いのではないかな。めざす学校像については、ことあるごとに何度でも繰り返し話をしていくべきであると考える。
〔教員〕 回収率100％（昨年度100％） ・一昨年度から最も改善が望まれるものとして挙げていた設問17「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」、18「各分掌や各学年、各職種間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」に関しては、ある程度改善されてきたようである。職員会議が協議の場ではなく、決定した事柄の連絡や説明の会となったので、そこに至るまでの会議が情報交換と課題検討の場としてうまく機能していなければならない。「個々に確認すれば済む事柄には会議の時間を使わない」、「会議は意見を出し合って検討する場である」という意識を一人ひとりが持つことにより更に改善していきたい。そうすれば自ずと設問9「学校運営に教職員の意見が反映されている」の値も上昇するものと考ええる。事前および会議後の資料確認に関してはクラスルーム等を積極的に活用していきたい。活用の際にはクラスルーム等で流されているものを毎日（朝、昼、夕方）チェックすることを個々人が習慣化する必要がある。 ・設問13「学校として、部活動の活性化について工夫している」について、働き方改革の一環として、部活動の地域移行や部活動指導員の活用が進みつつある（部活動指導員が配置されている部数8）ので、教員の業務としてとらえる意識が薄らいできているのかも知れないが、現状ではその大半に関して教員間の協力を必要としていることを忘れずに体制を改善していきたい。 ・設問16「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて随時検討している」については、昨年度、生徒指導提要の改訂に合わせて教員研修を行ったことで肯定率の上昇（45.8 ⇒ 60.4）に繋がったが、今年度はまた6割を割っている。生徒指導部を中心に問題点の特定を進め、時代に即した校則の在り方について検討していきたい。 ・設問20「この学校では、整理整頓が行き届いている」について、机が狭く決して余裕のある職場環境ではないが、最も重要なのは個々人の整理整頓の意識であることの自覚を持ちたい。同時に今後引き続き保健部や安全衛生委員会と連携して職場環境改善に努めたい。	〔第3回 2月 12日〕 ○キャリア教育について ・国公立大学をめざす生徒が不合格になったとのこと。国公立大学は1年以上の準備が必要。難しいのは否めない。 ・「なりたい自分や専門性を見つけて、進路を実現することができた」等の評価項目があればよいのではないかな。 ・私学無償化など大阪府の取組みもあるため、公立高校で進学実績を伸ばしていくことが難しい状況になっている。 ・地域とのつながりを伸ばすことができれば、生徒のやる気につながると思う。探究活動において地域と連携を重ねた場面が多々あったとのこと。生徒の頑張りがより一層地域に見える化されるようにしていただきたい。 ・来年度の目標において、各大学の目標人数をもっと伸ばしてもよいのではないかな。 ○不登校生徒への支援について ・現在、私学も不登校支援に注力している。支援体制によって志願者数に影響が出ている。家庭との連動にもツールが必要となる。動画の配信など、さまざまな仕組みづくりを民間教育関連企業とタイアップして取り組んでいる。公立高校も自前でできないところは民間企業との連携を考えてもよいのではないかな。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動	(1) 組織的に授業力向上と改善に取組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる。 ア 「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う。	ア・観点別評価を効果的に用いて授業改善を行う。	ア・観点別評価に関する情報交換会や教員研修を年2回以上実施する。[6回]。	ア・7月に専門家である大学教授を招き昨年度の続編となる教員研修を実施した。研修はこの1回だけであったが、観点別評価が浸透し、効果的に授業改善に結びつく事例が増えてきている。(○)
	イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員が多種多様なデジタルコンテンツについて知識を深め、それらを効果的に取り入れた授業を行う。	イ 定期的な相互授業見学及びICTを活用した授業力向上の研修や研究授業を実施する。	イ・相互授業見学を年2回[2回]実施し、参加率を80%以上とする。[56%] ・1人1台端末活用等の研修を1回以上[1回]、研究授業を1回以上[4回]実施する。 ・生徒「1人1台端末を効果的に活用している」肯定率90%以上。[88.9%] ・生徒「授業アンケート肯定意識」を3.4以上。[3.3]	イ・6月と11月に2回実施。参加率は60%。(△) ・1月に実施した校内研修では先進的な取り組みを実践している4人の教員がそれぞれワークショップを開催した。研究授業は5回実施。(◎) ・94.7%。(◎)
	(2) 総合的な探究の時間をはじめ、すべての教科・科目等において、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学びを充実させることにより、課題を発見し解決していくために必要な資質・能力を育成する (3) 3か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する。	ア・「総合的な探究の時間」において、本校の特色となる系統的な指導計画の作成と実施を図るためのフォーマットを作成し、「緑風冠モデル」として完成させる。 ・各教科で探究的な活動を授業に取り入れる。 ・中期的目標に掲げる「確かな学力」を具現化し、学習支援ツールも活用しながら、個別最適な学びを推進する。 ・進学実績を向上させる。 ・コース・系の特徴を生かした進路指導を推進する。 ・満足度の高い進路を実現する。	・「総合的な探究の時間」のフォーマットを作成し、「緑風冠モデル」の完成をめざす。 ・探究的な活動に関する教員研修を年1回以上開催する。[1回] ・学力生活実態調査において、学習到達ゾーンを入学時と比較して3年時に1ランクアップさせる。[未達成] ・関関同立・産近甲龍合格者数20人以上。[23人] ・摂神追桃合格者数50人以上。[63人] ・外大(関西・京都)合格者15人以上。[12人] ・看護医療系大学合格者増。[4人] ・芸術系大学合格者増。[2人] ・就職内定率100%維持。[100%] ・生徒、保護者「進路指導に関する項目の満足度」肯定率90%、85%以上。[89.3%、84.0%]	・第1回3.30、第2回3.31。目標値には届いていないが1人1台端末の活用や観点別評価による授業改善が進んでおり、今後数値の向上は十分期待できる。(○) ・「本校探究モデル」がほぼできあがった。今後もアップデートを重ねより良きものへとしていきたい。 3年生が北河内探究活動交流会やルールメイキング関西大会に参加した。外部コンテストへの参加は今後も続けていきたい。(○) ・12月に実施。課題設定に関する外部研修の伝達講習も実施した。(◎) ・1ランクアップは実現できなかったが、上位層の成績は向上している。中下位層の成績が伸び悩み平均が上がらない状況である。 「本校探究モデル」で取り組む「なりたい自分を見つけて将来を選ぶ」取り組みを学びの動機づけに結び付けていきたい。(○) ・関関同立・産近甲龍5人(△) ・摂神追桃42人(△) ・関西外大18人(○) ・看護医療系大学10人(◎) ・芸術系大学2人(○) ・就職内定率100%(○) ・89.2%、76.3%。(△)

2 地域・保護者から信頼される学校づくり	（１）自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる。 （２）安心できる人間関係を構築するため特別活動(行事、部活動等)を充実させ、学校満足度を向上させる。	・教員全員による生徒指導体制を推進する。 ・要支援生徒について支援教育コーディネーター、教育相談委員会、担任、ＳＣ、ＳＳＷによる連携した支援を行う。 ・生徒会活動を推進し、地域とも連携し学校行事を更に活性化させる。 ・地域や中学校、部活動大阪モデルにおいてのペアリング校と連携し、部活動指導員を有効に活用した部活動を行う。	・生徒が学校の指導規則を守る項目の高い肯定率を維持する。[95.2%] ・教員「私はルールやマナーの指導について、違反の現場に遭遇した際は学年を問わず声かけを行い、その都度注意し指導している」肯定率 90%以上。[87.5%] ・登校時遅刻を前年度より 15%減少させる。[3273 件] ・生徒「教育相談に関する満足度」肯定率 90%以上。[86.7%] ・クラス活動や学校行事参加へ積極的に参加する肯定率 85%以上を維持する。[92.0%] ・保護者の学校満足度 85%以上を維持する。[87.5%] ・部活動加入率 60%以上。[47%]	・94.5%。(○) ・81.5%。(△) ・3505 件、＋7 %。(△) ・87.3%。(△) 目標値を超えることはできなかったが、管理職、ＳＣ、ＳＳＷが参加する教育相談委員会を週 1 回定期的に開催し課題を抱える生徒を把握する体制が整っている。その後のサポート体制を更に充実させることで数値の上昇は見込めると考える。 ・93.2%。(○) ・79.3%。(△) ・加入率は 45.1%と目標値を下回っている。(△) 部活動指導員を活用し、下記のような有効な取組みにより部員を獲得している。 剣道部が近隣 4 中学と毎週末の合同練習を実施。 男子バスケットボール部が近隣 8 中学と本校主催のカップ戦を実施。 箏曲部が地域の催しに複数回赴き演奏を披露。 サッカー部は元プロ選手の指導の下、技術力が格段に向上している。
3 人権尊重の教育と、「ともに育つ」教育の実践	（１）共生推進教室生徒の自立を支援する。 （２）教職員の人権教育等の研修を定期的実施するとともに、生徒への人権教育を推進する。	ア 生徒全員の進路実現 ・教職員の人権研修と生徒の人権教育を推進する。	ア・共生推進教室 3 年生の進路実現 100%の維持。[100%] ・教職員対象の人権研修を 2 回以上実施する。[2 回] ・生徒の人権に関する肯定率 80%以上を維持する。[92.7%]	・100% (○) ・7 月に障がい理解について、12 月に野崎高校と合同でユニバーサルフォントについて、ともに外部講師を招いて実施。(○) ・93.2%。(○)
4 校務の効率化と働き方改革の推進	（１）学校経営に教職員が参画する P D C A サイクルを推進する。 （２）校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。	・職員会議に至る各種会議を情報交換と課題検討の場として有効に機能させる。 ・学校行事の精選と各分掌業務の見直し、ＩＣＴの更なる活用により、業務負担の軽減を図る。 ・ノークラブデー、全校一斉定時退庁日の徹底に取り組む。	・教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」を向上させる。[50.0%] ・教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる。[60.4%] ・80 時間/月以上の超過勤務者を前年比 20% 減少させる。[20 件]	・72.2%。(○) ・66.7%。(○) ・13 件、－35%。(◎)